

人生の最期を豊かに過ごす余暇生活をめざして
～入院患者様の趣味歴から～

○草壁孝治 今井悦子 福田卓民 (青梅慶友病院)

I. はじめに

我が国の65歳以上の高齢者人口は、平成6年には総人口の14%を超えた（国連の報告書において「高齢社会」と定義された水準）。そして、平成21年10月1日現在、65歳以上の高齢者人口は、過去最高の2,901万人となり、総人口に占める割合（高齢化率）も22.7%となった。今、まさに22%を超え、5人に1人が高齢者、10人に1人が75歳以上人口という「本格的な高齢社会」となっている¹。

A老人病院では、「豊かな最晩年をつくる」ことを目標としている。入院患者の平均年齢は87.7歳、平均在院期間は3年4ヶ月、入院している人の約8割～9割の人がここで人生の最期を迎えている。従ってここでの余暇生活も人生最期となり、その時間は約1万時間²である。この人生最期の余暇生活をどのように過ごすことが本人にとって、快適なそして満足のいく生活となるのか、その生活をどのように援助することが豊かな生活につながるのかはまだ模索している段階でもある。その中で余暇生活にスポットあて、超高齢の人たちが若い頃、現役で活躍していた頃、どのような趣味を持って過ごしてきたのかを知ることは、余暇生活を援助するにあたって重要なこととなる。

そこで今回はA老人病院に入院している全患者の趣味歴を調査し、どのような趣味歴を持った人たちであるか実態を把握し、今後の余暇支援の質の向上につなげたいと考える。

(倫理的配慮)

趣味歴の情報は組織から許諾を得て、匿名性に配慮している。

II. 方法

調査施設：A老人病院 許可病床数 736床(医療保険病床 239床(療養病床 239床)

(介護保険病床 497床(療養型 257床、認知症疾患型 240床)

病床数：14病棟 調査日：平成22年8月1日 対象者：入院中の全患者 682名

調査内容：入院情報に書いてある全患者の趣味歴を調査する。

男女比：男性 158名 (23.2%) 女性 524名 (76.8%)

平均年齢：87.7歳 男性平均年齢：85.7歳 女性平均年齢：88.3歳

データの分類：調査した趣味をレジャー白書³の余暇活動の91種目に分類した。この種目に当てはまらないものは、その項目のまま取り上げた。

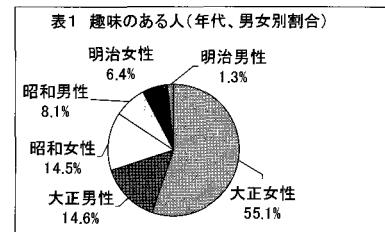
III. 結果

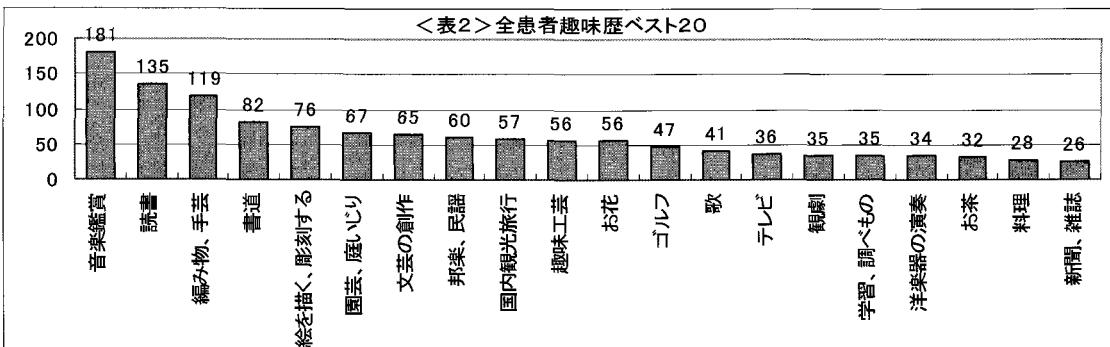
入院患者682名中、趣味歴が書いてあった人は594人(87.1%)、趣味がない、もしくは記載がなかった人67人(9.8%)、情報がなかった人21人(3.1%)であった。

趣味歴の書いてあった人の平均年齢は87.8歳であった。

趣味の延べ数：1728種目(個人の重複種目も含む)

趣味の種目数：102種目(レジャー白書の項目と合致したのは55種目、しないのは47種目)





<表3>男性の趣味歴ベスト10

順位	趣味歴の種目	人数
1	音楽鑑賞	67
2	読書	43
3	ゴルフ	37
4	園芸、庭いじり	23
5	学習、調べもの	19
6	囲碁	16
7	国内観光旅行	15
8	スポーツ観戦	13
9	写真の制作	13
10	テレビ	12

<表4>女性の趣味歴ベスト10

順位	趣味歴の種目	人数
1	編み物、織物、手芸	119
2	音楽鑑賞	114
3	読書	92
4	書道	74
5	絵を描く、彫刻する	68
6	文芸の創作	60
7	邦楽、民謡	56
8	お花	55
9	趣味工芸	55
10	園芸、庭いじり	44

<表5>明治、大正、昭和生まれの男性 ベスト10の比較

順位	明治生まれの男性の種目	人数
1	読書	2
1	囲碁	2
3	音楽鑑賞	1
3	テレビ	1
3	ゲートボール	1
3	スポーツ観戦	1
3	キヤッチボール、野球	1
3	投網	1
3	ビリヤード	1

順位	大正生まれの男性の種目	人数
1	音楽鑑賞	28
2	ゴルフ	25
3	読書	23
4	園芸、庭いじり	16
5	学習、調べもの	13
6	囲碁	11
7	写真の制作	9
8	国内観光旅行	8
8	ピクニック、ハイキング、野外散歩	8
9	麻雀	7

順位	昭和生まれの男性の種目	人数
1	音楽鑑賞	38
2	読書	18
3	ゴルフ	12
4	スポーツ観戦	8
5	園芸、庭いじり	7
5	国内観光旅行	7
7	テレビ	6
7	学習、調べもの	6
7	映画	6
7	演歌	6
7	洋楽器の演奏	6

<表6>明治、大正、昭和生まれの女性 ベスト10の比較

順位	明治生まれ(女性の種目)	人数
1	編み物、織物、手芸	11
2	読書	8
3	音楽鑑賞	8
4	絵を描く、彫刻する	8
5	観劇	8
6	書道	7
7	文芸の創作	7
8	邦楽、民謡	7
9	国内観光旅行	6
10	趣味工芸	6

順位	大正生まれ(女性の種目)	人数
1	編み物、織物、手芸	88
2	音楽鑑賞	74
3	読書	62
4	書道	59
5	絵を描く、彫刻する	50
6	邦楽、民謡	45
7	趣味工芸	44
8	文芸の創作	40
8	お花	40
10	園芸、庭いじり	31

順位	昭和生まれ(女性の種目)	人数
1	音楽鑑賞	32
2	読書	22
3	編み物、織物、手芸	20
4	文芸の創作	13
5	絵を描く、彫刻する	10
6	お花	10
7	園芸、庭いじり	9
8	書道	8
9	観劇	8
10	テレビ	7

＜表7＞趣味歴ベスト30とA老人病院で開催しているプログラムとの比較

順位	趣味歴ベスト30	A老人病院での開催	頻度
1	音楽鑑賞	日々の生活の中で	毎日
2	読書	書籍の貸し出し	いつでも
3	編み物、織物、手芸	院内ディ	毎日
4	書道	病棟レク	週1回
5	絵を描く、彫刻する	病棟レク	週1回
6	園芸、庭いじり	病棟レク	週1回
7	文芸の創作	病棟レク	週1回
8	邦楽、民謡	コンサート	年1, 2回
9	国内観光旅行	バスハイク	年数回
10	趣味工芸	院内ディ	個別
10	お花	病棟レク	年数回
12	ゴルフ	院内ディ	個別
13	歌	病棟レク	週2回
14	テレビ	日々の生活の中で	毎日
15	観劇	ビデオ鑑賞で	年1, 2回
15	学習、調べもの	院内ディ	個別
17	洋楽器の演奏	院内ディ	個別
18	お茶	イベント、病棟レク	年数回
19	料理	なし	
20	新聞、雑誌	日々の生活の中で	毎日
21	カラオケ	なし	
22	洋裁、和裁	院内ディ	毎日
22	スポーツ観戦	ビデオ鑑賞で	年1, 2回
24	洋舞、社交ダンス	なし	
24	コーラス	倶楽部	月1回
24	演歌	なし	
27	ピクニック、ハイキング、野外散歩	日々の生活の中で	月1回以上
28	麻雀	院内ディ	いつでも
28	映画	倶楽部	月2回
30	美術鑑賞	日々の生活の中で	毎日
30	写真の制作	なし	
30	囲碁	院内ディ	いつでも

IV. 考察

今回の調査の結果、入院患者の 87.1%にあたる 594 名の趣味歴を知ることができた。男女比では男性 24%、女性 76%、時代別では大正生まれの女性が 55.1% と過半数を占めている(表1)。

まず、594 名の趣味歴のベスト 20 の種目を掲載した(表2)。音楽鑑賞がダントツに多く、その後、読書、編み物・手芸と続いている。

ここでの趣味歴は、疾患の関係で入院患者が自ら記載できず、入院時に付き添う家族(配偶者や子供など)が書いたものである。家族からみて、結婚後あるいは出産後に行っている趣味や活動が印象に残った内容といえる。

次に表3、表4の男性、女性のベスト 10 を比較して見てみると、男性の上位は、ゴルフ、学習・調べもの、囲碁、国内観光旅行などで、女性では編み物・織物・手芸、書道、絵を描く・彫刻をする、文芸の創作などである。共通して高い音楽鑑賞、読書を除いて、男性と女性の違いが伺える。

男性の趣味歴は全体で 66 種目あり、その中で、男性だけが行っている種目は囲碁、釣り、将棋、キャッチボール・野球と 4 種目であった。女性全体の種目では、86 種目と多彩であり、女性だけが行っている種目は編み物・織物・手芸、コーラス、洋裁・和裁、長唄、おどり、宗教活動、おしゃれ、謡曲、買い物、音楽会・コンサート、体操、ボランティアと 12 種目であった。

女性が全体の 76%を占めるデータということもあるが、男性だけが行っている趣味が少ない、また、男性は、音楽鑑賞、読書などの室内での活動もあるが、野外で行うゴルフ、園芸、旅行、スポーツ観戦、写真などが多く含まれている。女性は編み物、書道、絵を描く、お花など室内で座って行う活動が多く、年齢を重ねても継続ができる活動でもある事が特徴でもある。

男性の趣味が少なく、年を重ねても行うことが困難なこともあります、男性の趣味、活動をサポートするのが難しい一つの要因と考える。しかし、実際に行えなくても、その活動の写真や映像を見て楽しむ、また座っても行うことが出来るようスタッフの創意工夫が求められ、また新たな楽しめる活動を発見していくことも必要となってくる。

明治、大正、昭和の時代の比較（表 5,6）では明治、昭和が大正に比べ人数が少ないとはいえ、大正から昭和を比較すると、男性、女性とも 1 位から 3 位は順位が変わっただけである。男性の特徴として、スポーツ観戦、テレビ、映画、演歌、洋楽器の演奏がベスト 10 に入り、囲碁、写真の制作、ピクニック、ハイキング、野外散歩、麻雀が下位に下がっている。女性は観劇、テレビがベスト 10 に入り、逆に邦楽、民謡、趣味工芸、国内観光旅行、歌が下位に下がっている。

男性、女性とも大正時代に 2 名ずつと少数ではあるが、パソコン経験者がいる点は注目したい。レジャー白書の余暇活動参加率においても 60 代以上では男性が 76.5%、女性が 70.4%⁴ と高い参加率を示している。実際に患者にテレビゲームを体験してもらうと、初めて扱うゲームの使い方、ルールを覚えることは難しいようであった。囲碁や将棋、麻雀などのゲームは経験があるため、比較的覚えやすいようである。学習、調べ物を趣味としている男性が大正生まれで 13 名、昭和生まれで 6 名いる（表 5）が、今後はインターネットなどを利用して調べることも可能となる。通信としては、携帯電話を枕元に置くことでその都度公衆電話まで移動することなく、家族や友達と連絡を取り合っている患者もいる。このようにコンピューターや機械が活動を助けたり、範囲を増やしたり、更には楽しみを増やすことにつながることも視野に入れていかなければならない。

最後に趣味歴のベスト 30 位と A 老人病院で実际に行っているプログラムの比較を行った（表 7）。32 種目のなかで年 1 回以上行う機会があった種目は 27 種目（84%）が合致していた。高齢者が入院をすることで、今まで行ってきた趣味をあきらめるのではなく、人生の最期までさまざまな形で継続できる環境を整えることが大切であると考える。趣味歴の継続の利点として、疾患のため活動から遠ざかっている人、生きる意欲を失いかけている人へ、過去に経験している趣味は動機付け、きっかけ作りになりやすい種目といえる。しかし、高齢者の場合は単に種目を楽しむだけではなく、心の触れ合いを必要としている⁵。その種目を楽しみながら、他者との交流をしたり、自己の存在をアピールし、生きてきた証を残そうと、書道で文字を孫に、手芸で子供に作品という形で残そうとする人もいる。

今回は人生最期の余暇の過ごし方を模索してきたが、A 老人病院に入院している人の趣味歴から、余暇支援の一つの方向性として趣味の継続が示唆できた。今後も趣味を楽しめる環境を整えると共に、お一人おひとりにあった提供の仕方を考え、人生最期の豊かな生活の一助を担っていきたい。

参考文献

¹ 平成 22 年版 高齢社会白書「高齢化の状況」

http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2010/zenbun/pdf/1s1s_1.pdf

² 草壁孝治・斎藤正彦編著者「高齢者のレクリエーションマニュアル」ワールドブランシング、2002 年 p26

³ 「レジャー白書 2010」公益財団法人日本生産性本部、2010 年 p 1, 18, 19, 20, 21

⁴ 「レジャー白書 2010」公益財団法人日本生産性本部、2010 年 p 19

⁵ 草壁孝治・斎藤正彦編著者「高齢者のレクリエーションマニュアル」ワールドブランシング、2002 年 p4